



# CUBAPON ニュース

日本キューバ連帯委員会

http://ifcc1985.com/cubapon/ 郵便振込口座 00170-2-195919

No.59

2020年

2月

東京都新宿区山吹町333辻ビル405

IFCC 気付

TEL : 03-3268-4387

FAX : 03-3268-6079

E-mail jvccp@rmail.plala.or.jp

## 2019キューバ友好訪問団★レポート

2019.11.29~12.6

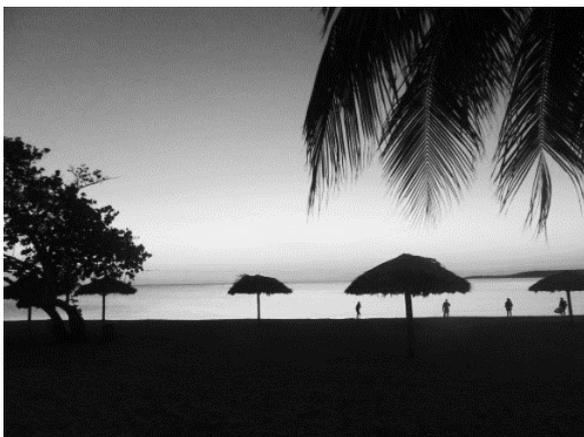


## 革命60年のキューバ訪問

第22回キューバ友好訪問団は2019年11月29日から8日間、9人の団員で、革命60周年にふさわしく、革命勝利を決定づけた戦いの舞台**サンタクララ**、革命後、最初にして最大の危機であった米国の軍事侵攻を食い止めた**プラヤヒロン**、さらには「9月には完成する」と言われていた「友好の家」の竣工式を行う予定で**青年の島**に渡るという、例年以上にシアな行程でキューバを体感しました。

真夜中にキューバに着いた翌朝、プラヤヒロンをめざしホテルを出発しました。中南米各地で幾度となく繰り返されてきた米国による軍事侵攻を撃退した唯一の地プラヤヒロンは「英雄の町」と呼ばれている場所。小さいながらキューバの誇りを凝縮したような博物館で館員のドゥルセさんから熱い説明を受けました。

その後、シエンフエゴスへ移動し、世界遺産に指定されている美しい歴史地区を散策した後、海沿いのホテルへ。カリブ海に沈む夕日の美しさは圧巻でした。



カリブ海に沈む夕日（シエンフエゴス）

翌日はチェ・ゲバラゆかりの地サンタクララへ。チェの生涯に触れ、革命を勝利に導いた列車転覆博物館などを訪れました。

4日目は朝一番の飛行機で青年の島に渡り CUBAPON 稲作支援のその後を検証、島の ICAP、ヘスス・モンタネ大学訪問、日系人ご家族との交流など、中味の濃い一日でした。

翌日は午前中、モデル監獄を訪れ、日系人会ミヤザワ・ノボル会長から日系人の苦難の歴史を直接お聞きし、午後の便でハバナに戻りました。

最終日は、キューバの医療現場を視察、その後、CTC（労働組合本部）、ICAP（諸国民友好協会）を表敬訪問し、キューバの現状について意見交換を行いました。

### 残念！竣工式ならず

「友好の家」建設は、ハバナを襲った竜巻被害の復興に建築材を優先して充てる政府の方針と、燃料不足による搬入の困難が重なり、工事が足踏み状態になっていました。

ノボル会長の「建築材さえ手に入れば」との痛恨の表情が全てを物語っていました。工事再開と早期完成を期待しましょう。



以上、駆け足の報告となりましたが、ここに書き切れない出会いや感動がたくさんありました。

ただ今、第22回キューバ友好訪問団の報告集を作成中ですので、お求めいただき、私たちが体感した「革命60年のキューバ」をぜひ共有して下さい！

CUBAPONの活動にご協力いただきありがとうございます。2019年度会費(2018.6.1~2019.5.31)会費:3000円にご協力お願いします。振込は郵便振込口座 00170-2-195919 口座名:日本キューバ連帯委員会。

# キューバ・中南米の「今」を学ぶ

.....

2019年12月8日、尼崎市の小田北生涯学習プラザにおいて「キューバ、中南米は今」と題し、キューバを訪問した仲間からの報告・講演会を開催し、70人の参加者で大いに盛り上がりました。(以下報告：同実行委員会)

.....



## 映画・講演など、盛りだくさんの内容で

「キューバ・日本・尼崎訪問団」として7人の仲間がキューバを訪問したのは2019年5月の8日間でしたが、報告集の作成と集会賛同者の募集など開催準備に時間がかかり、賛同団体12、賛同人34人が中心となって年末にようやく開催することができました。

集会の内容は映画上映、講演、報告でした。西川和子監督の映画「Cuba Cuba Cuba」はキューバの社会・文化・芸術を撮影したもので、アレイダ・ゲバラさんが登場して障害児の特別支援学校を案内した他、音楽家や画家、スポーツ選手が自らの活動や夢を語り、キューバ社会の楽しさや豊かさを見せてくれます。

続いて、在日キューバ大使館書記官のクラウディオ・モンソンさんより「キューバ・中南米は今」と題して講演いただき、最後に「キューバ・日本・尼崎訪問団」によるキューバ訪問の様子を写真やスライドで報告した後、訪問団代表の今西正行さんがキューバで訪問した学校、診療所、高齢者デイサービスや社会の様子を、教育や医療がすべて無料である事実をふまえ、キューバ社会主義への感動と連帯感をこめて語りました。



講演するモンソン氏

### -クラウディオ・モンソン氏の講演(要旨)-

キューバは革命60周年を迎えましたが、常にアメリカによる軍事・経済的な政権崩壊攻撃を受けてきました。オバマ大統領は54年ぶりにキューバと国交回復しましたが、トランプ大統領は再び制裁を強化してキューバ経済を崩壊させようとしています。キューバ制裁の口実は、キューバがベネズエラに介入しているという誹謗中傷ですが、事実はキューバによる医療・福祉・教育の支援なのです。国際社会はアメリカのキューバ制裁に反対し、国連では毎年「キューバ経済封鎖解除決議」を圧倒的多数で承認しています。孤立しているのはアメリカです。キューバは全国民の討議を経て採択された新憲法が2019年4月に公布され、ラテンアメリカの人民との連帯を掲げ、経済改革をはじめ新たな社会づくりに乗り出しています。



## TOUR-OPERATOR アイエフシー

はCUBAPON関連の手配旅行社です  
キューバをあなたに届けます

- ◆ アイエフシーはIFOC国際友好文化センターの関連旅行社です。“人と人との出会い”を通じた友好・交流プログラムを演出します。
- ◆ アイエフシーは文化、政治、福祉、環境分野の視察、研修、調査のプログラムをお手伝いします。
- ◆ アイエフシーはキューバなど中南米、ベトナム・中国などアジア、ドイツなど西欧、デンマークなど北欧のプランニングを行っております。

東京都知事登録旅行業第3-3757号  
〒162-0801  
東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405  
TEL 03-3268-6014 FAX 03-3268-6079

## CUBAPON★兵庫 誕生!

今後もキューバとの連帯を続けるため、日本キューバ連帯委員会・兵庫(準備会)を立ち上げました。来年も有意義な集会を持ちたいと思っています。



## 反帝国主義のつどい開催

1月22日から24日、ベネズエラの首都カラカスにおいて、「命と主権、平和のための反帝国主義のつどい」が開かれ、ラテンアメリカへの新自由主義による攻撃を抑制し、主権国家の基本的権利である自決権の尊重を求める闘いのひろばの構築を図るため 50 カ国から社会運動リーダーと政党から 403 人が参加しました。



## キューバとベネズエラの友好は消せない！



反帝国主義の国際会議では、米国とそれに追随する国々による、「世界の主」として君臨しようとする策謀に抗して闘う必要性が意思統一されました。

会議で発言したキューバ共産党書記局員ビクトル・ガウテ氏は、米国の攻撃に対し粘り強く英雄的な抵抗を続けているベネズエラの国民に対し敬意を表し、キューバとベネズエラ、同国の大統領ニコラス・マドゥロとの連帯を改めて示しました。さらに、ガウテ氏は、ベネズエラの闘いがラテンアメリカ・カリブ地域の自決権と尊厳、さらには国連の国際法が守られるかどうかを左右する極めて重大な闘いであるとし、ベネズエラ防衛のための団結を強く訴えました。

続いて、キューバの国会議員オルランド・ギテレスは、

ワシントン（米国政府）がいかに経済封鎖を課そうとも、ベネズエラとキューバ両国は打ち消すことができない友好的な協力関係で結ばれており、この協力関係のもと、無料で受けられる良質な医療をはじめ、発展を遂げている教育、スポーツ、文化など、あらゆる分野で公的福祉を充実させていることを訴えました。

「反帝国主義のつどい」では、中南米の天然資源を支配するためネオリベラルによる半植民地化政策のもとで行われているテロ行為への非難を含め、米国政府による攻撃と対決する決議が採決されました。

集会に参加した代表者によって確認されたこの決議文は、ラテンアメリカ、アフリカ、中東の平和を侵す米国の攻撃を非難するとともに、全世界の政治・社会組織に対して、国際法の遵守をホワイトハウスに要求することを求めることとしています。

## 闘うベネズエラ国民とともに

「反帝国主義のつどい」の2日目となる23日には、カラカス市内でパレードが行われ、「命、主権、平和のために」の横断幕を掲げてベネズエラの国民とともに集会参加者がともに参加し、集会を盛り上げました。



 セニョリータの  
**キューバ&ラ米★ウォッチ**

- ◆ 訪問団出発前、非常に心配されたキューバの燃料不足は9月、10月がピークで、11月は落ち着いていました。キューバは元気です！
- ◆ 一方、中南米。米国発「新自由主義」を押し付けられてきた「親米国」では民衆の反発が高まり、エクアドル、チリなどで大規模な抗議が行われています。
- ◆ メキシコ、アルゼンチンで誕生した左派政権が頑張っています。メキシコは「医療無償化」をめざし、アルゼンチンは飢えとホームレス解消に力を入れています。
- ◆ 最も懸念されるのはボリビアです。クーデターでエボ・モラレス大統領が亡命を余儀なくされました。背後には当然、米国がいます。「クーデター政権」は5月3日に大統領選挙を行うとしていますが、エボの出身政党 MAS をはじめ先住民への迫害が続いており、民主的な選挙が行われるかどうか、予断を許しません。(2020/2/14)

※「セニョリータのラ米ウォッチ」はメールでも好評配信中です。

※ 不定期で折々のラ米の出来事をお伝えしています。

※ ご希望の方は、こちらのアドレスまでご一報下さい↓

[jjccpf@mail.plala.or.jp](mailto:jjccpf@mail.plala.or.jp)



ラミレス大使夫妻と君島共同代表

2019年12月23日、ペレイラ大使の後任として新たに着任されたミゲル・A・ラミレス大使主催による夕食会が千駄ヶ谷の大使公邸で開催され、CUBAPONを代表し出席しました。

夕食会に先立ち、18時20分から19時までラミレス大使と単独で会談を行いました。会談にはマルガリータ大使夫人およびクラウディオ・モンソン二等書記官夫妻が同席されました。

私から、大使就任のお祝い挨拶と、「革命60周年記念」第22回キューバ友好訪問団の報告を行いました。大使からはCUBAPONが25年間にわたり毎年友好訪問団を送っていること、また私自身が16回目の訪問だったことに、驚きと感謝の御礼がありました。

夕食会には、CUBAPONのほか友好団体として「日本キューバ友好協会」「日本アジアアフリカオセアニア連帯委員会」「民医連」「キューバ円卓会議」「ラテンアメリカ研究会」の各代表6人が参加しました。

(CUBAPON代表委員 君島一宇)

**参加者募集**



## 2020秋★ CUBAPON平和友好訪問団

とき：2020年11月28日～12月5日（8日間）



### ■ 革命のゆりかご、サンティアゴ・デ・クーバへ

キューバ革命の始まりとなった「モンカダ兵営襲撃」があるサンティアゴ・デ・クーバは「革命のゆりかご」と呼ばれ、革命戦の激しさと公正な社会を目指し闘いに身を投

じた若き革命家たちの足跡を今に伝えています。

革命に生涯を捧げたフィデル・カストロの生家、彼が眠るサンタ・イフィヘニアを訪ね、フィデルに思いを馳せながら、革命61年目のキューバの「今」を体感する「2020

秋★CUBAPON訪問団」にぜひご参加下さい。

	月日	都市名	スケジュール	食事
1	11/28 (土)	羽田発 ハバナ着	午後：エアカナダで空路、トロントへ 国際線乗継ぎ、ハバナへ	朝：機 昼：機 夕：×
2	11/29 (日)	ハバナ サンティアゴ	【世界遺産】ハバナ旧市街・モロ要塞、革命博物館、小説「老人と海」舞台コヒマルなど	朝：○ 昼：○ 夕：○
3	11/30 (月)	サンティアゴ	サンタ・イフィヘニア墓地でフィデルのお墓参り モンカダ兵営、サンティアゴのモロ要塞など	朝：○ 昼：○ 夕：○
4	12/1 (火)	サンティアゴ ハバナ	ピランのフィデル・カストロの生家を訪ねる他、 モンカダ兵営襲撃ゆかりのシボネイ農場など	朝：○ 昼：○ 夕：○
5	12/2 (水)	サンタクララ	チェ・ゲバラ廟、ゲバラ博物館、カビーロの丘、 列車転覆博物館など、チェゆかりの地を訪ねる	朝：○ 昼：○ 夕：○
6	12/3 (木)	ハバナ	診療所視察、友好協会・労働組合中央本部表敬訪問、 ハバナ市内にてショッピングなど	朝：○ 昼：○ 夕：○
7	12/4 (金)	ハバナ発	早朝、エアカナダで空路、帰国の途 トロント経由、羽田へ	朝：○ 昼：機 夕：機
8	12/5 (土)	羽田着	午後：羽田着  お疲れさまでした	昼：機

※ 日程は調整中につき変更になる場合があります。

※ ご希望の方には、詳細が決まり次第、資料を送付しますので、ご連絡下さい。

(03-3268-6014：IFC 鎌田)



◆お求め下さい。  
2019訪問団・記録～『**経済封鎖下のカリブの社会主義XXI**』が近日発行。直近のキューバをお届けします。体裁：A5版、70頁、頒布価：800円（送料込）発行：3月上旬予定

◆ 「月刊社会主義2月号」に君島共同代表の記事「アメリカの攻撃下、強かに生きるカリブの社会主義国キューバ」が掲載。

◆ 「女のしんぶん」1月31日号に村上事務局長の記事「キューバで患者体験」が掲載。

◆ ベネズエラ大使館HPの「ニュース&イベント」のオピニオンページに月刊社会主義8月号掲載「いまベネズエラで起きていること」（2019/8）が転載。